
第2次秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画策定のための 若手職員意見交換会、市民およびエイフレンドリーパートナーの集い実施報告書

1 若手職員意見交換会

(1) 開催概要

各課から「高齢化の進行による影響があると考えられる」として挙げられた取組や事業をもとに、課や部局を超えた連携によって、より良い効果をもたらすという長期的な視点で取り組むべきことについて意見を集約するため、庁内若手職員による意見交換会を開催した。

(2) 職員構成および人数

福祉保健部、総務部、企画財政部、建設部、都市整備部、保健所、教育委員会、産業振興部など各部局の職員 計31人(26課所室)

(3) 開催日

第1回 平成28年10月12日(水)

第2回 平成28年12月9日(金)

(4) 内容

秋田市の10年後、20年後を見据えつつ、「空間環境基盤」「教育・文化基盤」「社会生活基盤」「産業・経済基盤」の4つの領域について、基本方針と取組の方向性についてのアイデアを分野横断で話し合った。

進行役：東京大学高齢社会総合研究機構 特任講師 後藤 純氏

(5) 論点となったこと、主な意見

ア 担い手不足、人材不足

ビジネス、コミュニティ活動、農業、自治活動、地域の安全・安心など、様々な場面において、担い手、人材が不足している。そのため人材育成や積極的にシニアの活用を進める必要があるほか、地域の多様な担い手を育成する教育も重要である。

イ 地域コミュニティの再構築

地域のつながりの希薄化が見られるなか、除雪や地域の困っていることの解決には、隣近所で助け合える環境づくりが必要であり、地域コミュニティの活性化により、様々な課題解決につながる。

ウ ビジネスの新たな展開

担い手不足の中、シニアを積極的に活用したビジネスの展開やコミュニティビジネスの創出、シニアの起業支援を積極的に行うことで、秋田の活性化につながる。

エ ハード面の解決

人口減少が進行してるので空き家等が目立つ。機能を一か所に集約する街づくりが必要だ。交通機関、公共施設の維持などが課題となっていくため、コンパクトなまちづくりが必要である。

2 市民の集いとエイジフレンドリーパートナーの集い

(1) 開催概要

行動計画策定に市民と民間事業者からの意見を反映させるため、「市民の集い」と「エイジフレンドリーパートナーの集い」を以下の通り実施した。

(2) 市民の集い

日時（曜日）			実施圏域	参加人数
1 1月21日（月）	午前	10:00～11:30	北部市民サービスセンター	11人
	午後	15:00～16:30	中央市民サービスセンター	8人
2 2日（火）	午前	10:00～11:30	河辺市民サービスセンター	12人
	午後	15:30～17:00	東部市民サービスセンター	4人
2 5日（金）	午前	10:00～11:30	西部市民サービスセンター	4人
	午後	14:00～15:30	雄和市民サービスセンター	4人
2 8日（月）	午前	10:00～11:30	南部市民サービスセンター	13人

(3) エイジフレンドリーパートナーの集い

日時（曜日）			実施圏域	参加人数
1 1月24日（木）	午後	17:30～19:00	中央市民サービスセンター	9人（7社）

(4) プログラム

ア 秋田市のエイジフレンドリーシティの取組について市職員からの概要説明（30分）

イ ワールド・カフェ方式での参加者による意見交換（60分）

(ア) 市民の集いでのテーマ

- a 地域の気になること（課題）はなんですか？
- b 地域の大切にしたいこと（資源）はなんですか？
- c この地域で、自分らしく暮らすために必要なことはなんですか？
- d この地域をさらに明るく・元気にするために、自分ができること、挑戦してみたいことはなんですか？

(イ) エイジフレンドリーパートナーの集いでのテーマ

- a エイジフレンドリーパートナーになって変わったこと、変わらなかったこと
- b 超高齢社会に直面して企業として課題と考えていること可能性と考えていること
- c 秋田のビジネスを元気にするために必要なこと（市民の協力、行政の制度、民間の連携など）

ワールド・カフェ方式について

ワールド・カフェとは、“カフェ”にいるようなリラックスした雰囲気の中、参加者が少人数に分かれたテーブルで自由に対話を行い、ときどき他のテーブルとメンバーをシャッフルしながら話し合いを発展させていくこと。

(5) 主な意見

ア 市民の集い

(ア) 地域の気になることについて

- a 高齢者がアクティブ派とノンアクティブ派の2極化している。また、70代後半以上の高齢者と団塊世代では価値観が異なる。
- b 住民同士の繋がりが希薄になった。
- c 個人情報保護のため、日常の安否確認や防災活動がやりづらくなっている。
- d 地域の祭り、自治会活動、農業などで担い手不足がある。

(イ) 地域の大切にしたいこと（資源）

- a 人情、こだわりのある気質。
- b サロンやサークル活動。
- c 人口が少なく、お互いの顔が見えやすい。話が通じやすい。
- d 豊かな自然。
- e ヴィラフローラ、秋田港、秋田城、土崎空襲跡地、秋田総合車両センター（土崎工場）などの固有の施設、場所。
- f 地域の祭り。
- g 防災避難訓練、共助組織による雪寄せや草むしり、資源回収活動など自治組織の活動が活発なこと。

(ウ) 地域で自分らしく暮らすために必要なこと

- a 良い人、良いじいさん、良いばあさんになろうとしない。
- b 人と話をする。
- c サロンでの活動。
- d 世話をされる人・する人が時々入れ替わる。
- e 高齢だからできないのではなく、できることからやる。
- f 距離感を保ちながら、いざとなったら助け合える関係づくり。

(エ) 地域をさらに明るく・元気にするために、自分でできること、挑戦してみたいこと

- a 麻雀や音楽を使った男性の居場所づくり。
- b 町内会よりももっと小さな単位のグループによる共助体制づくり。
- c 住民主体の活動。
- d 地域資源を再確認して発見する。地域住民が地域資源を再確認する事が大切。
- e 古いものを大切にす。シニアを活用し、次の世代にきちんと残す。
- f サロン、カフェ、集える場所など、地域資源をまとめたマップづくり。

イ エイジフレンドリーパートナーの集い

(ア) パートナーになって変わったこと、変わらなかったことについて

- a 高齢者の個人的な背景に目を向けるようになった。高齢者に対する見方が変わった。
- b 行政の動きを意識するようになった。
- c 街中で高齢者にやさしいところ、そうでないところに関心を持って見るよう

になった。

d 意識は変わったが、行動はなかなか変わらない。

(イ) 超高齢社会に直面して企業として課題と考えていること、可能性と考えていること。

a 人口、事業所、雇用の減少。

b 人口減少、空き家の増加によるサービス利用者の減少。

c 高齢者の財産処分、相続、認知症。

d 高齢者の経験を活かし、就活中の若者の面接相手となりアドバイスをする。

e 高齢者の食べる楽しみを継続させるための口腔ケア。

f 健康寿命を延ばす食品製品の開発。

(ウ) 秋田のビジネスを元気にするために必要なこと(市民の協力、行政の制度、民間の連携など)

a シニア自身がシニアビジネスに参入する、シニアによる起業。

b 高齢者の雇用を増やす。

c 一人暮らし高齢者の買い物付き添いサービス。

d 高齢者と若い世代が集うサロンを開催(男性高齢者の外出を促す)。

e 高齢者不足→マッチング制度を作る。

f サービス業の教育(秋田はサービススタンダードが低い)。

g 販路を県外、海外に広げて展開する。

h 全ての世代が助け合えるシステムを作る。

i 農業には定年がなく、死ぬまで働くことができる。